

拝啓 11月も早や下旬、晩秋となりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年は夏が暑かったせいか、紅葉がきれいなように感じます。

今月は、石館守三先生の『はまなすの小道』の2回目です。石館先生は、どのようにこの世の中で生きるかを課題にしてお話をされますが、今回の「人生の選択」という講演（1984年10月青山学院工学部礼拝堂）も、石館先生が繰り返し繰り返し説かれていた内容でしょう。

石館守三先生は、小西芳之助先生を助け、月に1回は高円寺東教会の講壇に立たれていました。私は目下、石館先生のオープンリールで遺されている証言テープをCDロムに変換し、希望者に配布するという一種の伝道を行なっています。本人の私が、なかなか時間がとれなくて、第3期20枚のCDの内、数枚しか聞くことができず、1月頃予定の第4期の発注までに、果たして全部聞けるだろうか、相当焦っておりました。このため、先日ポータブルのCD再生装置（ウォークマン）を買い、電車の中などで聞きますと、何とどんどん聞く時間がとれるではありませんか。そんな苦しまぎれの時間捻出方法で聞いております。しかし、いずれも素晴らしい説教ばかりです。

石館先生はヨハネ伝がお好きで、小西先生からはパウロ、石館先生からはヨハネのことを学ぶことができうれしく思います。ヨハネとは、一体どんな人だったのでしょうか。数年前エペソに行ったとき、ヨハネ教会の跡があり、ヨハネがキリスト教成立の上で、大きな働きをされたことを直感しました。エペソで買った写真入りのエペソの解説書を取り出して読んで見ますと、「ヨハネは、AD42年にイエスの母マリアと共にエペソに来た。彼らはエルサレムに始まったキリスト教を広める目的をもっていた。パウロは53年にエペソに来た。」とあります。ヨハネとパウロの関係はどうだったのでしょうか。つきない興味がわいて参ります。

11月2日（土）、第10回南原シンポジウムが開かれ、約160人の方に出席いただき、三谷太一郎先生の「南原繁と国際政治」という題で、すばらしい講演を聞くことができました。

11月16日（土）、薛恩峰先生を囲む会が開かれ、5人のメンバーがいろいろな話題を提供しました。飯田橋の小石川後樂園の中にある涵徳亭という建物で開かれ、ゆっくり、長い時間話すことができたのもよかったです。

これから冬に向かい、季節の変わり目を迎えますが、どうぞ、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

敬具

平成25年11月24日

山口周三

エンカウターの読者各位